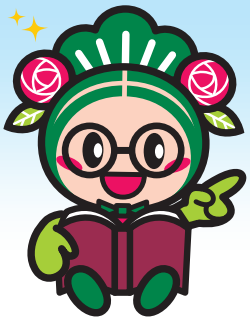
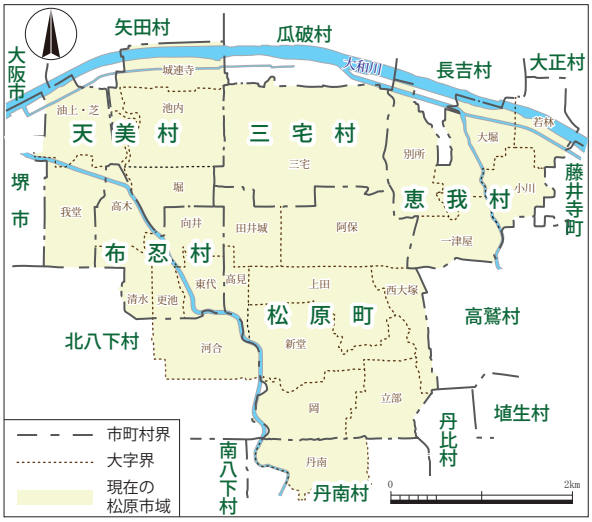


たじひのだより

松原市文化財情報誌 No.14

上の写真は昭和初期から終戦までに使われた物で、中には千人針（せんにんばり）や奉公袋（ほうこうぶくろ）など現在の生活になじみのない物もあります。昭和20年(1945)8月15日に終戦をむかえてから今年で70年になります。70年前はまだ松原市もなく、右のような町や村に分かれていました。

戦争体験者の高齢化により、直接体験を聞くことが困難となっており、もうすぐ戦争体験の語り手がいない時代がやってきます。その時、私たちは残された資料や場所からしか当時を知ることができません。今回は、それらの資料より一部を紹介します。



松原市域の昭和20年(1945)の姿

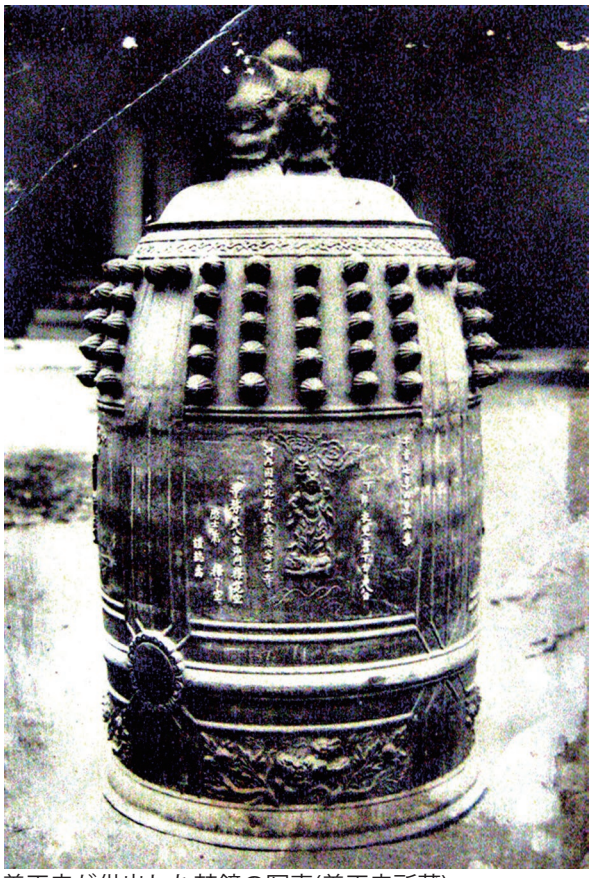
金属回収で消えた文化財

昭和12年(1937)に日中戦争が始まると国による物資の統制が始まります。その後戦争が続くにつれて次第に金属資源が不足し、あらゆる金属が徹底的に回収されました。お寺の仏具や梵鐘も例外ではなく、お寺にある梵鐘に刻まれた鋳造年を見るとそれがわかります。

右の写真に写っているのは昭和18年(1943)まで善正寺(天美我堂７丁目)にあった梵鐘です。善正寺に残る「日誌」によると、昭和18年の10月１日に報告法要と梵鐘の取り外しを行い、10月２日に牛車で八尾地方事務所へ運び金属特別回収班へ引き渡したようです。その後、12月23日に大阪府廳振興課内金属回収大阪事務所より買上代金支払の通知があったため受取りに出向いています。

供出した梵鐘は延享４年(1747)に鋳造されたもので、日誌には「寺寶」や「得がたき記念物」と表現されています。無くなってしまうのならばせめて記録だけでもという思いがあったのでしょう。供出した際、写真師に記念写真の撮影を依頼しており、それが右の写真と思われます。

昭和18年には大型金属の回収が徹底的に行われたようで、６月には天美国民学校と松原国民学校の大楠公銅像が回収され、９月には三宅の願久寺から梵鐘が回収されています。



善正寺が供出した梵鐘の写真(善正寺所蔵)

※日誌によると、池の間に四天王が表現され、８世の住持である寛空とその父了空の名が刻まれている。

防空陣地の跡地

昭和16年(1941)以降、空襲への備えとして地上防空部隊が主要都市部へ本格的に配備され始めます。当時は精巧なレーダーが配備されず、聴音機で敵機の高さ・速度・進行方向を推測し、照空灯で敵機を照らしてから砲撃していました。そのため高射砲陣地とは別に多くの照空陣地が築かれました。

戦争末期、松原市には松原町大字阿保の北端に高射第３師団高射砲第121聯隊第３大隊の第14中隊所属照空１個分隊の陣地がありました。昭和17年の航空写真を見ると、複数の建物と円形の掩体の様なものが２つ確認できます。指揮所の周りを砲座で囲う高射砲陣地とは明らかに違うため、照空陣地で間違いないと思われます。

この場所は、今では道路と宅地に変わっており、人々の記憶とこの写真が当時を知る手がかりです。

照空陣地推定所在地の昭和17年時点の様子

(大阪市都市計画局所蔵「大阪市航空写真(昭和17年)」に一部加筆)

※写真上が北。赤線の範囲は、昭和23年の航空写真で更地となっている箇所。赤丸の場所は、現在の府道大堀堺線の交差点「阿保５」。

求められた空襲への備え

昭和14年(1939)に警防団令が発令され、それまで地域の消防活動を担ってきた消防組は警防団となりました。これにより空襲に対する防空の役割を与えられることになりました。

また、国民全員に対しても空襲への備えが求められ、防空演習(松原村では昭和15年度より防空訓練に名称変更)が何度も行われました。

なお、当時の警防団の装備は下の様な腕用ポンプが主体で、消防自動車は非常に貴重でした。

訓練に参加する人々（松原市所蔵）

森田式消防ポンプ機（松原市所蔵）
※ポンプには我堂消防組とかかれている。商標より昭和10年に森田喞筒製作所が製造したことがわかる。

警防団による放水訓練（松原市所蔵）
※上の写真２点は昭和19年3月25日に天美村で行われた防空救護模範綜合訓練の様子を警防団寫眞挺身隊の隊員２名が撮影したもの。

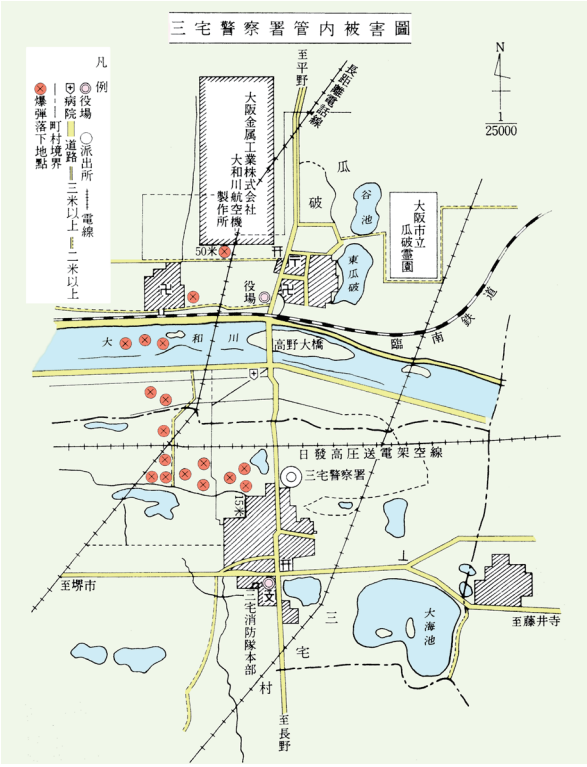
松原市域への空襲

太平洋戦争勃発後、昭和19年(1944)にはマリアナ諸島へ米軍が上陸し、守備隊の玉砕が相次ぎました。その後、日本本土爆撃用の飛行場が建設され、Ｂ-29爆撃機による空襲が始まります。

大阪への空襲は、日本側の記録では昭和19年12月19日の三宅村と瓜破村(現大阪市平野区)へのＢ-29による爆弾18個の投下が最初です。その後、工場や都市部を中心に約50回の空襲がありましたが、松原市域で空襲の被害があったのは２回のみです。昭和20年(1945) ６月15日の第４次大阪空襲では天美村と恵我村に被害がありました。

松原市域南側では空襲の被害がなく、丹南の来迎寺は大阪市北田辺国民学校の学童集団疎開の受け入れ先となっていました。

なお、12月19日の空襲については、大阪府知事名で作成された「空襲被害ニ関スル件」に詳細な被害状況と爆弾落下地点の図面(右写真)があり、12月22日付の朝日新聞にも初空襲の記事があります。



昭和19年12月19日の空襲による被害図
(松原市史資料集第６号『大阪空襲に関する警察局資料Ｉ』より転載、一部加筆)

国登録有形文化財

嶋田家住宅

平成26年10月７日、国土の歴史的景観に寄与しているものとして
嶋田家住宅が国の登録有形文化財となりました。
登録されたのは、明治時代に建てられた
玄関書院・奥座敷棟・道具蔵・大門の４棟です。

嶋田家住宅
玄関書院

松原市天美東８丁目にある嶋田家は、江戸時代に池内村の大庄屋を務め明治初期までは木綿問屋を営んでいたと伝えられている家です。

屋敷地には主屋を始めとする江戸時代～明治時代に建てられた建物が残っています。今回登録された４棟の建物ですが、奥座敷棟が明治20年（1887）、道具蔵が明治前期、玄関書院と大門が明治後期にそれぞれ建てられています。

玄関書院は主屋の前面に鞘の間（普段の客用の玄関）を介して建つ斬新な意匠の数寄屋で、奥座敷棟は主屋西側に増築された洗練された意匠の離れ座敷です。道具蔵は校木を積む井籠組という関西では珍しい壁の骨組みを持ちます。敷地東面の大門は雄大かつ重厚で風格を備えたものです。

これら建物は、大阪近郊にある近代建築の優れた例として重要なものです。

※敷地及び建物の内部は見学できません。

松原市内の文化財について
お知りになりたい方へ

■ホームページ（ホーム画面右端の「分野で探す」より「文化・スポーツ」の項目にある「文化財」をクリック）
http://www.city.matsubara.osaka.jp

■文化財の展示／図書の販売
ふるさとぴあプラザ１Ｆ・郷土資料館（一般財団法人松原市文化情報振興事業団）
〒580-0016　大阪府松原市上田７丁目11番19号　　電話 072-336-6800

■埋蔵文化財に関する手続き／文化財に関する相談／図書の販売など
松原市役所５Ｆ・教育委員会 文化財課
〒580-8501　大阪府松原市阿保１丁目１番１号
【電話】072-334-1550(代)　／　【FAX】072-332-7720(教育委員会事務局)

編　集　松原市教育委員会事務局 文化財課
発行日　2015年3月
印　刷　㈱高速オフセット